

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2472200308		
法人名	医療法人福島会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	三重県三重郡朝日町大字小向2064番地1		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2472200308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvsvocd=2472200308-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和5年9月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

経営母体が歯科であるため、日々の口腔ケアや口腔指導、定期往診などには特に力を入れており、感染予防などにも役立っています。また週に2~3回、既往歴に合わせた訪問マッサージを受けることもでき、入居者のADLの維持に繋がっています。地域との交流を深めるため、地域の催しに参加したり、ホームでの催しにお招きしたりしています。今年もコロナ感染により双方とも積極的な行事は行えていませんが、感染予防のもと小規模ながら庭でイベントを開催したり活動を広げ、少しづつコロナ前の日常を取り戻しつつあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

広い庭にたくさんの草花が咲き乱れ、花の隣りには収穫を待つだけのさつま芋の葉が活き活きと地を這っている。その庭の先には子ども達の可愛い声が飛び交う「こども園」があり利用者の安らぎになっている。庭の花は事業所の至る所に飾られており心の癒しになっている。調査時の机の上にも可愛く飾られてあった。行政も散歩コースになるほど近くにあり連携も取りやすく両者の心強さになっている。2004年開設から20年近く、勤務年数が10年以上の職員が15名。入社4年目の職員が「すごく楽しく働いている」と話すなど職員間のチームワークも良く両ユニットとも笑顔が溢れている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり楽しく家族のように豊かな生活を送りたい。すべての人にほほえみを」という理念を日頃から共有し、実践につなげている。各職員の自己評価も毎月実施しており、管理者が毎月確認している。	理念が惰性にならないように、時折リーダーは理念を伝え基本に立ち返るように話しかけている。職員間はチームワークが良く情報の共有も早く「笑顔」を大事にしながら理念に沿った支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練の一環として町内の消防団の方へ災害時の要介護者の移乗方法や介助方法等、ホームの職員による勉強会を実施。又、地域住民の方向けの見学会を兼ねた交流会を定期的に開催している。	地域の消防団員より「介護について」の勉強会を頼まれ職員が実施し、今後の避難訓練への協力体制に繋がった。また認知症カフェ参加の住民より事業所見学や認知症の話などの希望があり事業所の庭で開催し定期的な交流となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のイベントの際に参加させていただき、認知症の方への対応や支援の方法を、地域の方々にも理解していただけるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催しており、参加していただいている家族や町役場担当者・社協の職員からいろいろな意見や案を出して頂きながら、共にサービスの向上に繋がれるように取り組んでいる。	昨年10月から2ヶ月毎に行政と家族代表が参加し開催している。地域住民の事業所見学時に質問として病気、料金、看取り時の説明などが出た。今後、運営推進会議への参加に繋げ質問に答えサービス向上に活かしたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社協や町役場担当者との関係性は良好で、町全体で認知症の理解を深めていこうという取り組みも出来ている。日頃から電話やメールでも相談することが出来ており、良好な協力関係が築けている。	介護保険に関する情報や生活保護者の受け入れなど行政との連携は密である。地域で唯一の事業所である為、お互いの取り組み（災害時の訓練、行事や研修への参加等）への協力体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスでも「禁止の対象となる具体的な行為等」を正しく理解出来るように情報の共有に努めており、身体拘束禁止委員会の開催も定期的に行っている。その内容をもとに、玄関の施錠は時間限定ではあるが、開放する時間は設けている。	事業所全体で身体拘束、虐待防止については会議や研修会などで理解している。身体拘束適正化委員会も定期的に行い職員も情報共有している。読みやすいファイリングも作成してある。今後は身体拘束適正化委員会を運営推進会議時に報告する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスの際等に、身体拘束禁止委員会の議論とその内容をもとに、職員の正しい理解と取り組むべき事を考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアカンファレンスの際等に、権利擁護に関する勉強会や参考資料等で学ぶ機会をもち、意見交換しながら制度の理解や意識を深められるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、十分な説明を行い、疑問点等ないか確認しながら、理解していただいた上で、書類にサインをもらっている。契約後も家族から疑問等があればその都度話を聞き、ご理解頂けるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「提案箱」を常時玄関に設置して、匿名でも相談出来る機会を設けている。毎年年度末には満足度アンケートも実施しているが、コロナ禍により現在停止しており、今後再開していく予定となっている。	家族とは外部評価のアンケートから職員間の関係の良さ、気楽に話せるとの意見が多数あり関係性の良さが伺える。今は面会時やブログなどでの交流が多い。利用者も事務所へ自分の要望を直接訴える姿がみられた。	家族との意見交換が不十分な今、中止しているアンケートを再開しその中に家族の気持ちを表せる内容を加え「真の思い」を組み取り、受け入れ、反映されることを望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会はケアカンファレンス際にも話し合っているが、管理者は随時、個別で職員の意見・提案を聞く機会を設けている。	職員間のチームワークは良好である。意見も言い易い環境も整っている。古くなったクロス張替え、浴槽のリフト設置、トイレの扉の改善などの希望などは職員からであり法人の対応も早い。職員自己評価表での訴えもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月提出する、ホーム独自の人事評価表があり、職員個々が常に前向きに取り組めるように努めている。又、代表者は管理者を通して職場の現状を把握し、職場環境等の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の講演会や研修会の機会があれば、希望するどの職員に対しても随時受けていくよう積極的に進め、代表者は、管理者や職員の能力を把握し、介護力の向上につながるような機会を与えられるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは、事業所間会議を始めたことで、町内の同業者と交流する機会が出来、サービスの向上に繋がる取り組みが出来ている。又、法人内の他事業所とは定期的に勉強会や行事の手伝いを通じ、交流を持つことでサービスの質の向上のための話し合いの場を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は特に不安を感じる事がないように、本人のペースに合わせてゆっくり時間をかけ、不安なことや要望等を傾聴し、徐々に信頼関係を築きながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族の話を十分に聞くように努めている。家族等が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾け、不安解消につなげる努力をしている。又、家族とはいつでも相談し合える体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から可能な限り話をお聞きすることで必要としている支援を見極め、サービスを導入する段階で本人と家族がその時に必要としている支援を行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の性格や好み、得意な事などを尊重しながら、暮らしを共にするという関係性を大切にしている。一緒に洗濯物たたみをしたり、食事作りや後片付けの手伝いをしてもらったりして支え合う関係性作りが築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人と家族の絆を最優先し、共に本人を支えていくという関係性を築けるように、本人の日常の様子は家族の面会時や電話にてお伝えし、心身の変化がみられる時は常に連絡する等、相談しやすい関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会にも制限があったり、なかなか馴染みの人との交流が持てないという事もあったが、コミュニケーションを密にし、電話で家族や知人との会話を行うための支援をする等、本人の馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍でのストレスへの対応として懐かしい友人からの電話や手紙などのやり取りも頻繁である。地元とのつながりは昔から強く少し外に出るだけで知り合いに繋がる環境である。ケーブルテレビから地域の祭りを流すなど回想法の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からユニット間での行き来があり、季節の行事・誕生日会や日々のレクリエーションなどホーム内全体の入居者間の関わりは多くある。今後も入居者同士の関係が良好な形で継続していけるように支援に努めていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者や家族との関係性は大切にしている。希望があれば関わりをもち、法人内の介護付有料老人ホームに転居された方に対しても、引き続き、本人・家族との関わりを大切に、必要に応じて相談や支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話の機会を多く持つ事で本人の意向、思い、考え等を把握し、希望等をくみ取れるように努めている。被害妄想の強い方には本人の気持ちを受け止め、妄想の原因が取り除けるよに努めている。	利用者により状況が変わることが多く一人ひとりへの対応が難しいが職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。ユニットにより雰囲気の違い、気分によってユニット間を行きする等一人ひとりの思いを大切に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーなどから本人の趣味や1日の流れ、生活環境等を伺い、入居に至るまでの経過を把握することで、自宅での生活と変わらず、その人らしい生活が継続して送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録とは別に、入居者の変化や気づきに関しては、申し送りノートへの記載をすることで情報を共有し、その方に合ったケアを継続して実践していけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の状態や状況からニーズをみつけ、家族の意向もお聞きしながら、現状に即した介護計画を作れるように、意見を出し合いながら作成している。また認知症状の進行など、変化が見られる時はケアカンファレンスで意見を出し合い、介護計画の見直しを行っている。	日々の個別記録、申し送りノートなどを利用し職員会議で話し合い評価と次への介護計画へ繋げている。3ヶ月毎に評価し6ヶ月毎に介護計画を作成している。個別記録に介護計画も見やすいように付けてあり支援の目的が分かるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの提供内容や日々の様子や気づきを、個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有することで、実践する際も職員間で連携もとれ、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神状況、家族の家庭状況等個々のニーズに合わせた必要と思われるサービスの提供に柔軟に対応したいと出来る範囲での支援に努めるも、実際は限りある事も多くあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により行事にもまだまだ制限があり、地域住民の方との関わりは困難ではあったが、状況が改善次第、入居者の日々の暮らしが少しでも豊かになるような地域資源を活用し支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に月2回の往診協力を受けており、個々の入居者に応じて、かかりつけ医を定めている。入居者の体調不良の際は、かかりつけ医と相談し、訪問診療又は職員同行で受診対応している。	主治医は2人。入居の段階で主治医の特徴を話し利用者と家族が決める。どちらも訪問診療に力を入れている。24時間体制を取り、看取り対応も出来る。基本の往診は月2回、LINE診察もある。看護師は週3回出勤している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調不良や皮膚の状態等で気付いた事は介護スタッフから看護師に伝え、ホームで処置をし、必要であれば受診できるような体制をとって支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院関係者との情報交換を密に行い、本人の状態を把握・確認しながら、安心して治療を続けてもらえるよう支援している。退院に関しても、出来るだけ早期に退院し、スムーズに受入れが出来るよう病院関係者との関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方については、入居時にも確認している。ホームでの生活が困難になってきた場合は、主治医・家族と話し合い、隣接の介護付有料老人ホームへの移動も含め、今後の方針を共有しながら支援出来るように取り組んでいる。	重度化、終末期へは主治医と家族、利用者と密に話し合っている。看取り体勢を取っているが状態により同法人の有料老人ホームを進める事もある。昨年は看取りはなかったが職員は看取りのマニュアルを基本とした研修し体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	分かりやすいマニュアルを作成し、急変時、事故発生時に備え、どの職員でも対応出来るように努めている。また、消防署の協力を得て救急講習を受ける機会を定期的に設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間を想定した火災訓練を2回・水害訓練を1回の年3回、同敷地内にある介護付有料老人ホームと合同で消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。避難経路や防災計画に関しては、運営推進会議の際、朝日町役場担当者に意見を求めたり、朝日町防災保全課に相談している。	災害訓練は定期的に行っている。洪水を想定し隣の有料老人ホームの2階への避難訓練を行った。地域の消防団との連携もある。朝日町防災保全課の協力のもと自治会との協力体制を整える予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方に対して、本人の意見や意思を最優先し、一人一人の個性・人格を尊重し、その方に合った声かけが出来ているか、プライバシーを損ねる対応になっていないか、職員間で常に確認し合いながら、実践していけるように努めている。	入浴やレクリエーションなど一人ひとりを尊重しながら声掛けをする事を基本としている。利用者同士も互いを尊重しているかを支援しながら見守っている。フロアでは職員の声かけも利用者を尊重している姿勢が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全て職員が判断して動くのではなく、日常生活の中で、出来る限りご本人の思いや希望を自己決定出来るような雰囲気づくりを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の意見や要望はないか傾聴することを大切に、本人の希望があれば、本人の望む方向に支援していけないか検討し、希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人一人に対して日頃から整容に気を配り、その人らしい身だしなみを支援・提供している。本人のおしゃれへのこだわり等は、いつまでも大切に受け取るような思いで接している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事作りや、後片付けを会話を楽しみながら行うことで、入居者の精神安定にもなり、食事を楽しむことにも繋がっている。	利用者に家事の得意な方、料理の好きな方などが多く、楽しんで動いている。食材は業者が配送している。行事食やおやつ、家庭菜園なども楽しんでいる。夏祭りでは本物のかき氷機も使用し喜ばれた。誕生日は個々に祝い、手作りケーキも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて、個々の栄養状態を把握しながら食事量や栄養摂取量、水分量の確保に努めている。特に体調が不安定の方は、細かく摂取量を記載し、スタッフ間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士の指導のもと、毎食後、一人一人の口腔状態を確認しながら、それぞれの能力に応じて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔や排泄状況、排泄方法等を把握する事で、排泄の失敗や、オムツ（パット）の使用量を減らす等、トイレでの排泄の自立につながるよう支援をしている。	排泄表を利用しながら、リハビリパンツから布パンツになった利用者、夜間おむつ使用の利用者でも昼間はリハビリパンツで過ごし、日中は利用者全員がトイレでの排泄を行うなど自立に向けた支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の取り入れ等で個々に応じた便秘予防の取り組みに努めている。慢性化している入居者には、状況に応じて主治医に相談し、服薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数や入浴時間など、こちらの都合に合わせて合わせることなく、出来る限り個々の希望に沿いながら、入浴を楽しんでいた頂けるように支援している。	全員が浴槽に浸かれるようにリフトを設置している。帰宅願望のある利用者は入浴すると落ち着く。他にマイシャンプーや化粧水使用へのこだわり等、一人ひとりの希望や要望を聞き、入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々に違う為、就寝時間は決めず、一人一人に応じた就寝介助を行っている。不眠の方には、夜間に気持ちの良い睡眠が確保できるよう、出来るだけ日中に適度な運動や体操を取り入れる等して活動量を増やしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に応じて服薬支援を行い、症状の変化の確認にも努めている。服薬の用量や用法についても主治医の指示を仰いで支援している。また、困ったときには、勝手な判断をせず、主治医・薬剤師に相談・確認を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の生活歴に合わせ、料理の手伝いが好きな人、食器洗いが好きな人、おしゃべりが好きな人、歌を唄うことが好きな人、野球観戦が好きな人、それぞれが好きな事、得意な事が活かせ、楽しんで生活出来る場であるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出等も思うように出来ず、家族との面会にも制限はあったものの、春には久しぶりの花見外出の支援が行え、楽しんで頂けた。入居者の方には希望通りの支援は出来なかったが、庭でおやつ会をしたり、近所への散歩など出来る範囲内での支援を行った。	久しぶりに旧東海道の満開に咲いた桜を見に出かけた。桜の下のベンチでの休憩は格別でとても喜ばれた。事業所の広い庭の周りを歩くだけで外出した気分になりテラスでのおやつも楽しみである。秋は伊坂ダムで紅葉を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人による管理が難しい方は家族の要望でホーム側で管理・支援させて頂いてる方もみえるが、家族の把握のもと自身で所持されている方には、いつでも好きな物を購入したり、使えるという安心感であったり、楽しみを持っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にコロナ禍で、面会も自由に出来ない期間には家族と関りを持てるように、電話で話す機会を増やす支援を行った。又、字が書ける人には普段から手紙を送れるように職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感を感じていただけるように季節の花を飾ったり、季節感のある壁飾りを貼り、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。猛暑が続く、今夏は室温の温度調節に注意・配慮し、快適に過ごして頂けるように努めている。	自慢はウッドデッキである。外出出来ない時でもデッキで庭の花や景色を見ながらおやつを食べるなど外出した気分になり喜ばれている。簡単に外へ出られるのも魅力である。畳コーナーは寝転がることが出来こちらも人気がある。スポットライトや沢山の生け花や壁面など明るくお洒落なフロアーである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、畳スペースで昼寝したり、お気に入りの場所で自由に過ごして頂けるよう居場所づくりの工夫をしている。お互いの居室でくつろいだり、ユニット間を自由に行き来したりもされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は入居時に家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や本人の好みの物・思い出の写真などを配置するなどして、本人が居心地よく過ごせるような居室づくりを行っている	入居前に過ごしていた居室そのままにレイアウトしている利用者が多い。使い慣れた道具、絨毯、TV、机、ソファ、沢山の家族写真と思い出の品々など一人ひとりの思いが詰まっている。居心地良く楽しい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の共用スペースは自身で行き来できるようわかりやすく表示し、判断が難しい方へもその都度説明し、自身で安全に目的の場所へ向かえるよう支援している。		